

非認知能力育成の柱となる 10 の「個人スキル」

非認知能力は、物事に関する考え方・取り組む姿勢・行動など、日常生活・社会活動において重要な影響を及ぼすスキルの総称です。

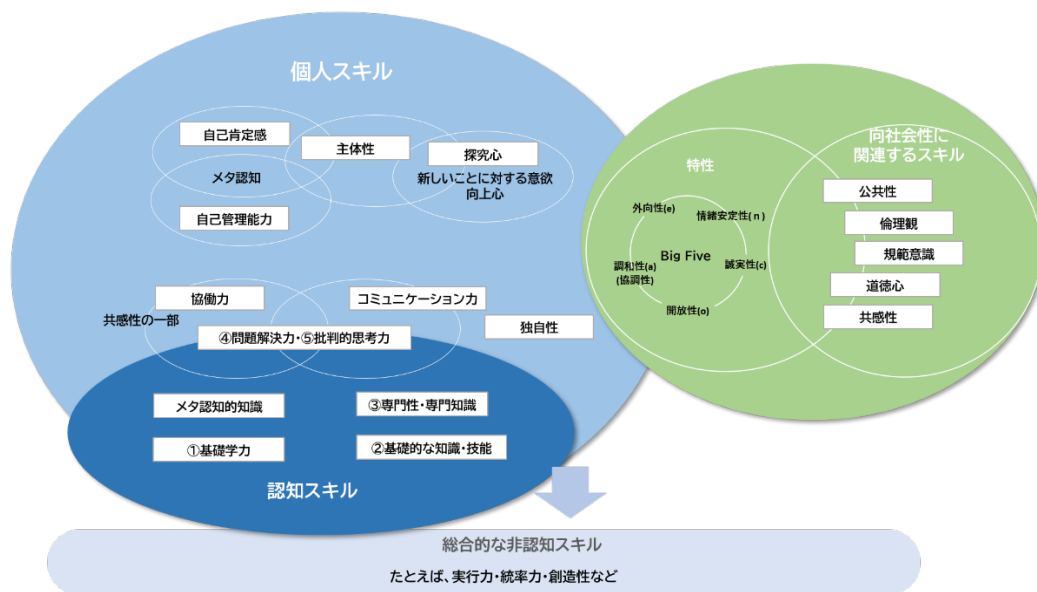
生涯総研では、2018 年のレポートで体系化した 17 の非認知スキルについて、「育成」と「発揮」の観点から詳細に考察し、翌 2019 年のレポートにおいて 3 つのグループに分類しました。

まずは「個人スキル」のグループです。コミュニケーションが得意な人、好奇心旺盛な人、自制スキルが高い人など、得意なスキルは人それぞれですし、何か行動を起こそうとするときの原動力も人によって様々です。このように、個人に依存し個人差も出やすいスキルのグループを 1 つ目とします。

2 つ目は、向社会性に関連するスキルのグループです。これらは幼児期の教育方針に影響を受けやすく、個人では変え難い性質を持っています。

3 つ目は、上記の非認知スキルや知識などの認知スキルなどの組み合わせによって生まれる、総合的な非認知スキルのグループです。

これらの 3 つのグループの関係性を図で表すと、以下のようになります。



この図からも、「総合的な非認知スキル」は「個人スキル」グループが中心となって発揮されることが分かります。このことから「個人スキル」グループに属する 10 の非認知スキルの育成こそが、非認知能力を効率的に向上させる上で極めて効果的なアプローチであると考えられます。

「個人スキル」グループに属する非認知スキル

問題解決力	批判的思考力	協働性	コミュニケーション力	主体性	自己管理能力
自己肯定感	探究心	独自性	共感性の一部		

生涯総研では、この「個人スキル」グループに着目し、調査研究を重ねています。「その人が発揮しやすいスキルは何か」「自分の長所はどこにあるのか」などを発見し生かしていくことで、得意な面を育成し、苦手な面を補えると考えています。

<参考レポート>

日本生涯学習総合研究所 「非認知能力」の概念に関する考察（1）（2018 年） 「非認知能力」の概念に関する考察（2）～非認知能力の要素における関連性の観点から～（2019 年） 「非認知能力」の概念に関する考察＜集約版＞（2022 年） 企業で活躍するための「非認知能力」（2022 年）